

# 河内小だより

平成22年6月4日 No.11

## 運動会の準備・後片づけご協力へのお礼

5月29日(土)五月晴れの中運動会を開催することができました。子どもたちも練習の成果を十分発揮してくれたものと思います。この経験を日頃の生活に生かしてほしいと願っています。保護者の皆様方には、土曜日にもかかわらず参観していただき感謝申し上げます。また前日並びに当日の準備・片付けへのご協力ありがとうございました。皆様方の素早い対応で、少ない時間で済ませることができました。

### 一つもりのしつけ

日本大学教授 佐藤 晴雄

保護者の多くは、わが子を十分にしつけたつもりになっている。これは、筆者らが3年前に実施した意識調査から読みとれる結果である。

調査によると、保護者と教師の8割以上が一般的な家庭のしつけが不十分だと認識するが、保護者の7割はわが子のしつけがうまく行われていると自認する。多くの保護者は他の家庭のしつけは不十分だが、わが家では十分しつけているつもりなのである。

しつけの役割分担意識を見ると、早寝・早起きなどの基本的生活習慣のしつけは家庭の役割であり、「協力し合う姿勢」など社会性のしつけの一部については学校の役割だと認識する傾向にある。この傾向は保護者と教師の両方で同様に見られた。その意味で、両者のしつけの役割分担意識に著しいズレはない。

そして、多くの保護者は基本的生活習慣などのしつけを家庭で行っていると考えますが、教師は家庭でさほど行われていないと見る。例えば、「挨拶の仕方」の場合、家庭の役割だと回答した保護者は92%である。これを家庭でしつけていると回答した割合は保護者の83%に対して、教師では27%に過ぎない。一方、教師は基本的生活習慣の指導も学校で行っていると自認するが、それが学校で行われていると見る保護者は多くない。再び「挨拶の仕方」を取り上げると、学校の役割だと回答した教師は8%だが、学校で指導していると回答した割合は教師が70%で、保護者の16%と数値が開く。なぜ、このような実態認識のズレが生じるのか。

おそらく、保護者は基本的生活習慣を家庭で十分しつけているつもりになっているので、学校で行われているとは思ってもみないのであろう。しかし、そのしつけ不足を目の当たりにした学校は、それを指導せざるを得ないのである。こうした保護者の「一つもりのしつけ」、今日の家庭教育の問題がありそうだ。

「内外教育 平成22年5月14日号」より

学習の基本は、基本的な生活習慣の定着です。小学校の間に身につけたいものです。人の話がきちんと聞けるということは、学校の先生をはじめ多くの人びとからいろいろなことを学ぶことができるということです。素直な子どもは、個々人の能力や速度の差もありますが必ず伸びていきます。